

# 飯塚企業とのインターンシップ

情報工学研究院電子情報工学研究系 教授 小田部 荘司



## はじめに

2013年6月29日に福岡大学で「九州イノベーションフォーラム2013」が行われました。その時に私は初めて、長期実践型インターンシップというのを見ました。そこでは、九州各県で行われている事例が発表されており、審査の結果、鹿児島大学法学部2年の女子学生が指宿のソラマメ農家と行ったインターンシップを優勝としました。その後、彼女は10月の全国大会でも見事優勝しました。

この事例は、8か月間のインターンシップでした。最初の4か月はと

上は長期のインターンシップと言われるれています。

この長期実践型インターンシップでは、数か月から1年に及ぶ期間を使います。もちろん、ずっと企業に滞在することもありますが、1週間に一日とか数日程度という場合もあります。いずれにしろ、期間が長いとじっくりと問題に取り組むことができます。

また実践型と言われるのは、取り組んでいる課題が、短期インターンシップのように体験をするというものではなくて、実際に問題となつていくことや企業が行いたい新規事業などであるからです。社会での実際の課題は何が問題であるから定義しなければいけませんし、どのように解くのかは分からないので、議論して試行錯誤していく必要があります。さらに改善活動も必要です。

このように、長期実践型インターンシップを通じて、学生は、大学教育で不足している社会で要求される実際に問題を解決する能力の涵養ができます。企業側は、新規事業に学生と取り組むことができます。地域創生にも繋がり、無限の可能性を感じ

じます。

## 飯塚における取組

そこで、私は早速2013年の後期から情報工学部電子情報工学科においてこの長期実践型インターンシップを始めてみることにしました。電子情報工学科では、3年生の後期に「電子情報セミナーⅡ」という実験演習科目を設けており、教員の裁量に任されたかなり自由な教育をしています。通常はプレ卒研とか、医局のインターンになぞらえて、4年生で行う卒業研究への橋渡しのための実験演習をします。そこに、私は長期実践型インターンシップを入れました。

初年度はハウ・インターナショナルの正田英樹会長（当時。現在は社長）に手伝っていただき、さまざまな支援をいただきました。こちらもどのように学生を指導したらいいのか、試行錯誤のところがあり、学生と一緒にかなり考えて進めました。たとえば、問題の解決策を考えると学生はかなり戸惑います。なぜかというところこれまでの試験や実験、演習では必ず答えがあり、いい解決手

にかくソラマメのことを知ることで好きになることから始めています。そして後半の4か月でインターネット通販を立ち上げています。その結果400万円の売り上げを達成しています。たったそれだけですが、私は大学生と個人事業者の組み合わせは星の数もあつて、可能性の塊だと理解しました。これを理系大学である本学でなんとか実施できないか考え、実際に実施を行いました。

本稿では飯塚の企業や団体と学生が行っている長期実践型インターンシップの事例を紹介します。

## 長期実践型インターンシップとは？

最近では大学生が企業に行つて就業体験を行うインターンシップは広く行われてきて、一般的になつてきました。通常多く行われているのは、5日間企業に行き、1単位、2週間行けば2単位になるという短期の体験型インターンシップです。それ以

段が必ずあったからです。社会の問題のように何が正解か分からず、どのようにして解くのかも決まっていないと学生は道しるべがなく、戸惑い途方に暮れます。そこを上手に励まして進めていきます。

このように実践し始めてから、3年目くらいになって、ようやく飯塚での長期実践型インターンシップの形が見えてきました。私がかつ間違えていたのは、九州工業大学の学生は全国規模の企業としかインターンシップをすることができないという思い込みでした。飯塚市にはたくさんいい企業があるのにも関わらず、見逃していました。飯塚市役所にも協力をいただき、いくつかの地元の熱心な企業や団体を紹介していただきました。実際に、飯塚の企業や団体とインターンシップを進めると、非常にうまくいきました。まず、地元であるので、学生は空いている時間に頻繁に現場に行くことができます。また飯塚の企業は九州工業大学の学生を本当に大切にしてくれて、

親切に指導してくださいます。

長期実践型インターンシップでの目的は2つあり、一つは新しい教育

の実践です。ここまでで触れたように、これまでの大学教育ではできなかった、問題発見、問題解決を通じて、主体的に行う、失敗を恐れない、うまくいかないことを知る、継続的に改善するなど、これまでの教育でできなかったことを実践します。もう一つは、地域貢献です。これまで忙しい理系学生は他の大学に比べて地元への関わりが薄い傾向がありました。長期実践型インターンシップを通じて、学生を地域に送り込んで、様々な問題について取り組むことにより、地域貢献に繋がりたいと考えています。

### 具体的な内容

少し、具体的な内容について触れます。実施時期は後期なので10月から3月まで行っています。最初は電子情報工学科だけで行っていましたが、2017年度からは各学科に協力をいただき、情報工学部全体で行っています。対象は学部2、3年生です。

飯塚市の大学支援補助金と本学の学内予算をいただき、活動費にあてています。

数年にわたる試行錯誤で、次の様な活動方針としています。

学生は2から3名で1グループとして企業や団体にインターンシップとして派遣しています。最初は5名から

のグループにしていたのですが、あまり人数が多いと、動かなくなる

学生がでてきます。活動は1週間に一度現場に行き、2週間に一度程度は進捗報告会を行って、教員は指導

を行います。ただ、指導は他の科目と違い、正解が無いので、企業側と教員側の意見が異なったりすること

はよくあることで、学生にもこれを理解してもらうように丁寧に説明します。半年で必ず成果物を出していただきます。最初は、成果物はきついので、アイデアの提案だけでもいいかと進めていたのですが、それでは企業にはメリットがありません。さらに改善活動を2回できるようにし

ます。右の図は飯塚のタカハ機工での成果物の例です。ソレノイドの知名度を上げるための活動としてマンガを作ることを提案し、その原作を作り、マンガは理系マンガ作家として有名な見ル野栄司氏に作画いただきました。これはホームページで楽しむことができます。

今後、さまざまな方々の支援を得て、長期実践型インターンシップを実施していきます。関係の各位に深く感謝申し上げます。

